

【論文】

東ドイツによるベトナム・ヴィンの戦災復興における伝統と自然

TRADITION AND NATURE IN THE POST-WAR RECONSTRUCTION OF VINH IN VIETNAM BY EAST GERMANY

富田 英夫*¹
Hideo TOMITA

Abstract: This study focuses on how Vinh was designed in the 1970s and how nature and tradition were incorporated into the planning method. The study uses documents from the German National Archive in Berlin. The analysis clearly shows that (1) nature and tradition were considered important elements in the urban design of Vinh, (2) these elements were related to each other in the newly designed city, and (3) such a state was described as an "urban organism". In other words, it was confirmed that the post-war reconstruction of Vinh in the 1970s had a similar intention to the urban design of Hamhung in the 1950s.

Keywords: *Urban Design, East Germany, Vietnam, Socialist City*
都市設計, 東ドイツ, ベトナム, 社会主義都市

1. 序

1-1. 研究の背景

東ドイツによるベトナム第三の都市ヴィン (Vinh) の都市復興の援助は、1973 年 10 月の二国間調印に始まる。都市の設計と建設 (Projektierung und Aufbau) の両方を担うこの援助は、当初 1974 年 1 月から 1978 年 12 月までの 5 年間の計画だったが、後に 2 年間延長され、1980 年 12 月までの計 7 年間に及んだ (図 1、2)。



図 1. 現在も住人が住まう「クアンチュン住宅団地」 (左)

図 2. 再開発のため解体中の「クアンチュン住宅団地」 (右)
(2023 年 8 月撮影)

1-2. 研究の目的、方法、および資料

本研究は、都市設計の観点から東ドイツによる 1950 年代の咸興 (北朝鮮) の復興支援と 1970 年代のヴィン (ベトナム) の復興支援の連続性を指摘しようとする。その一環として、本稿ではヴィンの都市設計における伝統と自然の扱い方に注目し、その都市設計の手法上の特徴を明らかにする。

著者のこれまでの研究では、東ドイツの技術団は 1950 年代の咸興の都市設計において朝鮮半島の伝統的な都市・集落の構造と自然との関係を丁寧に分析し、その分析結果を新しい都市設計に応用していた事が明らかになっている。その観点から、1970 年代のヴィンの都市復興において同様の特徴があるのかを確認し、咸興とヴィンの復興支援の連続性を指摘する根拠にしたいと考える。

研究方法としては文献研究の方法を用いる。本論文の構成は次のとおりである。まず 2 章ヴィンの都市設計における「伝統」の扱いを考察する。つぎに 3 章で「自然」の扱いを考察する。最後に 4 章で以上の分析結果を総合的に整理・考察する。

1-3. 研究資料

研究資料としては、ドイツ連邦文書館 (ベルリン) 所蔵のゲアン省管理委員 (Verwaltungskomitee Nghe An) 名で書

*1 建築都市工学部建築学科

かれた1975年5月30日の報告書「ヴィンの総合開発計画及び幾つかの計画の準備に関する報告書」(Bericht über die Generalbebauungsplanung der Stadt Vinh und über die Vorbereitung einiger ausgewählter Vorhaben)を用いる。

この資料は、ドイツ語のタイプ原稿(A4判80頁)とベトナム語の分析地図群(数種の判型からなる25枚)から構成される¹⁾。東ドイツの技術団のヴィンにおける活動は1974年2月にそのメンバーがヴィンに到着してから実質的な作業が始まったことから、この報告書は作業開始から1年4か月間の活動内容をまとめて東ドイツに報告したものと考えられる。一般に、都市設計における初期の活動はその都市の自然条件や社会経済状況の分析に費やされる事が多い。そういう点では、この東ドイツ技術団の活動初期の報告書には、本論文で注目する都市の伝統と自然にかんする分析結果が収録されていると考えられる。

1-4. 既往研究

東ドイツの技術団によるヴィンにおける都市復興の援助(都市の設計と建設)については、クリスティーナ・シュベンケル著『社会主義の建設 (Building Socialism)』(2020)の第2部「再建 (Reconstruction)」(103-207頁)が詳しい。シュベンケルはヴィンの復興についてアーカイブ資料と現地インタビュー等をもとに、バランスよく記述しており、ヴィンの復興における伝統と自然の扱いについても「クアンチュンの建設計画は、近代性と伝統のバランスをとることを目的とし、自然と密接に結びついたベトナムの地域的なアイデンティティを帯びたインターナショナルリズムを示唆している」²⁾と評する。この近代性と地域性の関係は、ヴィンに限らず第二次世界大戦後の近代都市における主要なテーマであった。

本研究の関心は、1-2「研究の目的」でも述べたように、1950年代咸興で見られた伝統・自然と融合した都市設計が1970年代ヴィンでも見られるのかというものであり、シュベンケルの研究では取り上げられていない個別の伝統的建造物や自然をどのように捉え、都市設計に活かしたのか否かを明らかにする点に本研究の独自性がある。

2. ヴィンの都市復興における「伝統」の扱い



図3. 現存するヴィン城塞の東門(撮影2023年8月)

ヴィンには1830年代に完成したヴォーバン式(星形の要塞)の「ヴィン城塞」(図3)が遺る。報告書では、その歴史性に着目しながら、その広大な敷地の活用方法を次のように定めていた。

「旧城塞の跡地は、この目的(著者注:スポーツとレクリエーションの中心地にする事)に対して理想的である。立地が良く、伝統の地でもある。歴史的建造物が建ち並び、過去の建築物の証となっている。建設の初期段階においても、城塞の敷地は都市における社会的なハイライトとなることが意図されていた」³⁾

実は、この城塞は東ドイツの建設援助の中核となる「クアンチュン住宅団地」(図1、2)の敷地の西側に隣接しているため(図4)、「ヴィン城塞」はヴィンの都市復興において重要な要素の一つであった。そのため、1975年という都市復興の初期段階にあっても「クアンチュン住宅団地」と並んで重要な計画と定められ、具体的なデザインコンセプトと計画実現のためのスケジュールが報告書中11頁に渡って記された⁴⁾。資料によれば、この城塞はヴィンの「若い世代の公園」("Park der Jungen Generation" in Vinh)というデザインコンセプトの下で、スポーツとレクリエーションの中心地として活用する事が計画された。1975年5月の時点では、計画は以下に示す6段階に分けられ1978年末に実現する事が綿密に計画されていた。

第1段階:1975年12月まで。この段階では、城塞周囲の堀の復元や整地など土木的な工事が計画された。

第2段階:1976年1月～1976年9月。この段階では、堀の復元と門の再建という文化遺産保護の活動が計画されると同時に、各種スポーツ施設の建設という城塞の敷地の活用が計画された。

第3段階:1976年9月～1977年5月。この段階でも引き続き各種施設の建設が計画されたが、スポーツ施設だけではなく、ホー・チ・ミン記念館や愛国者記念碑といった国家を記念する施設の建設も計画された。東門の完成、西門の工事開始など文化遺産保護の活動も計画された。

第4段階:1977年5月～1977年9月。青少年クラブ、展示館、西門の完成など新築工事と文化遺産保護の活動が計画された。

第5段階:1977年9月～1978年5月。図書館の完成。南門の再建という文化遺産保護の活動も並行して計画された。

第6段階:1978年5月～1978年12月。庭園等の工事が計画された。

このように、ヴィンの伝統を代表する「ヴィン城塞」については、城門と周囲の堀は復元あるいは保存されたものの、城塞の建物群の復元は計画されなかった事が理解できる。その一方で、城塞内の広大な敷地を活用し、スポーツとレクリエーションのための建築が計画された事が確認できる。

3. ヴィンの都市復興における「自然」の扱い

3—1. 山の扱い



図4. ヴィン中心部の航空写真（図中の加筆は著者による）

ヴィンは、ソンラム川が河口付近で蛇行する場所に位置する都市（図4）で、市域は基本的に平坦な低地である。市域の南東部にある標高102メートルのクエット山がヴィンのほぼ唯一の山となっている。そのため、このクエット山は、調査段階においても都市設計段階においても、とりわけ意識された事を報告書から読み取る事ができる。例えばヴィンの主要な都市軸を説明するくだりでは「（ヴィンに）南から来ると、ベン・トゥイ伝統・レクリエーション公園とクエット山が、都市への入口を形成している」⁵⁾、と記され、平坦な土地におけるクエット山の存在を「都市の入口」として意識している事を確認できる。

更には、はるか遠方の山脈も意識された。前述の都市軸の説明では、「南西方向の軸線の終点には広々とした風景が広がり、夏にはラオスとの国境をなす標高3000m級の雄大な山々のシルエットが見える」⁶⁾という説明も見られる（ラオスとの国境をなす山脈とヴィンとの地理的な関係は図5参照）。

こういった都市軸の設定自体は都市の様々な要因をもとに設定したと考えられるが、その特徴の説明の際に、都市の機能的・実利的な要因のみを挙げるのではなく、周囲の山々を風景における重要な要素と捉え、「都市の入口」「軸線の終点」など表現している点には注目しておいてよいだろう。平地であるがゆえに、否が応でも山に注目が集まるというヴィンならではの都市設計手法と考えられる。

山は見る存在であるだけでなく、登る存在でもある。ヴィン唯一の山であるクエット山は市域における小高い場所として特別な場所でもあった。クエット山の山頂付近には、クアンチュン（Quang Trug）王を奉った立派な寺院が建つ。このクアンチュン王の寺院については報告書中の言及はないものの、①都市分析図では文化遺産として記号が付されている事、および②建設援助の中核となった住宅団



図5. ヴィン付近のラオスとの国境の航空写真（図中の加筆は著者による）

地の名前が「クアンチュン住宅団地」である事の2点からその存在を意識していた可能性は十分考えられる。都市復興においては、むしろこの自然の高台が持つ象徴的な意味が重視されたようで、報告書には「（前略）、クエット山の山頂は、ホー・チ・ミン記念碑の建設地としてさらに検討される」⁷⁾と記載され、都市における新たな意味付けが検討された様子が伺える。

3—2. 水の扱い

ヴィンは、ソンラム川の河口付近の低地という立地のため、もともと地下水位が高く、「市街地の高い場所でも、水位が地下1mより深く沈むことは、ごくたまにしかない（およそ2月～7月）。雨季とその直後には、地下水位はほとんどすべての場所で地表に達する」⁸⁾。そのため、都市復興においても排水システムには注意が払われ、「既存の（排水）ルートは自然地形に対応しており、将来的な都市開発にも適した位置にある」⁹⁾という判断の下、戦争で破壊された排水システムの修復作業が計画された。

4. 結

以上、ヴィンの都市復興における伝統と自然の扱いについて、特に2章でヴィン城塞、3章でクエット山を中心に概観した。実は、報告書における導入部を除いた本格的なテキストの冒頭部分において、ヴィン要塞とクエット山の名を挙げ、「ヴィン城塞やクエット山など、特に重要な歴史的遺跡は、新しい都市設計において重要な役割を果たす」と記される¹⁰⁾。さらに報告書では、そういった伝統と自然をいかに扱うのか、という都市設計上のコンセプトが「ヴィンの都市・建築発展の基礎コンセプト」¹¹⁾という部分において明確に述べられている。少し長くなるが該部分を引用したい（引用文中の下線は著者による）。

都市有機体のデザインについて

ヴィンとその周辺地域の地形および建築の歴史における特徴的な要素は、以下の通りである。

- 星形六角形の平面を持つヴィン城塞遺跡と周囲の堀
- 市街地の南の境界としてのヴィン川
- 市の重要な伝統的な場所としてのベン・トゥイのクエット山（ハティンへの川の交差点に位置する）
- ソンラム川（ソンカー川）とその河岸地域、およびハティン川の対岸の山のシルエット
- 旧市街の主要な道路網
- グアロとクアホイのソンラム川（ソンカー川）とソンカム川の河口の間の海岸、およびそれらの北に隣接する山々

これらの景観条件とかつての都市計画の遺構は、新しい都市設計において慎重に観察され、計画の当初から都市構成における重要な要素として考慮される。ヴィンは周辺の景観や農業と密接に関連しており、それが都市有機体の構造に直接的に貢献している。

このように、ヴィンの都市設計において自然と伝統が重要な要素として考慮されている事が明記され、それらが新しく設計された都市において関連し合う状態を「都市有機体」と表現している事が明らかになった。

つまり、1970年代のヴィンの都市復興においても1950年代成興で見られた伝統と自然と融合した都市設計と同種の意図が少なからずあった事が確認できた。

今後の課題は、こういった伝統と自然と融合した都市設計における東ドイツの独自性を見出す事である。

謝辞

本研究はJSPS科研費JP22H01670「一国主義的北朝鮮都市・建築通史の批判的解体と多元的再構築」による成果である。記して感謝申し上げる。

図版出典

図1-3： 著者撮影

図4、5： Microsoft Bingの地図に著者が加筆

注

- 1) Archivsignatur: 28549. この28549の資料は2箱のファイルから成り、1箱目はタイプ原稿と分析地図、2箱目は分析地図が収められる。1箱目の資料にはすべて通し番号が打ってあるが、それら全てが本研究の分析対象の報告書「ヴィンの総合開発画及び幾つかの計画の準備に関する報告書」（1975年5月30日）ではない。具体的に、通し番号は1から162まであり、1-85および105-162は「ヴィンの総合開発画及び幾つかの計画の準備に関する報告書」（1975年5月30日）の内容である。105-162は1-57の写しである。写しでは分析地図と63-85の図面リストが除いてある。除外された内容を確認すると主に1/50～1/200の建築図面（クアンチュン住宅団地の図面）と面積等の数値的な内容を記した資料が省かれている事が確認できる。86-104はヴィンの東ドイツ技

術団（DDR-Arbeitsgruppe Vinh）のK. Schlesierが記した「ヴィンの都市設計・建設における基本構想の骨子と内容に関する提案」（Vorschlag für Gliederung und Inhalt der Grundkonzeption für die Planung und den Aufbau der Stadt Vinh, 1974年5月25日）である。

- 2) 参考文献5)、p. 166.
- 3) Archivsignatur: 28549, 通し番号 74. Das Gelände der ehemaligen Burg ist dafür hervorragend geeignet. Es hat einen günstig gelegenen Standort. Es ist eine Stätte der Tradition. Es stellt mit seinen historischen Bestand ein baukünstlerisches Zeugnis der Vergangenheit dar. Das Burggelände soll bereits in den ersten Etappen des Aufbaus einen gesellschaftlichen Höhepunkt der Stadt darstellen.
- 4) Archivsignatur: 28549, 通し番号 74 - 84.
- 5) Archivsignatur: 28549, 通し番号 37. Vom Süden kommend bildet der Traditions- und Erholungs- park Ben Thuy zusammen mit dem Berg Quyet den Stadteingang.
- 6) Archivsignatur: 28549, 通し番号 38. Nach Südwesten in Verlängerung der Achse schließt sich die offene Landschaft an mit der im Sommer sichtbaren majestätischen Silhouette der 3000 m hohen Grenzberge zu Laos.
- 7) Archivsignatur: 28549, 通し番号 39. ... soll der Gipfel des Berg Quyet als Standort für ein Ho Chi Minh Monument weiter untersucht werden.
- 8) Archivsignatur: 28549, 通し番号 17. ... Der Wasserstand sinkt auch in den höheren gelegenen Bereichen der Stadt nur zeitweilig und örtlich tiefer als 1m unter Geländeoberfläche ab (etwa Februar bis Juli). Während und kurz nach der Regenzeit erreicht der Grundwasserhorizont fast überall die Geländeoberfläche.
- 9) Archivsignatur: 28549, 通し番号 22. ... Die vorhandenen Trassen entsprechen dem natürlichen Geländeprofil und haben auch künftig für die Stadtentwicklung die richtige Lage.
- 10) Archivsignatur: 28549, 通し番号 11. ... Historische Stätten von besonderer Bedeutung, wie Burg Vinh, Berg Quyet u.a. erhalten wichtige Funktionen in der neuen Stadtgestaltung.
- 11) Archivsignatur: 28549, 通し番号 32. ... Die Gründungskonzeption der städtebaulich-architektonischen Entwicklung der Stadt Vinh

参考文献

- 1) *Das Volk baut seine Zukunft auf, Text zum sozialistischen Aufbau in der Demokratischen Republik Vietnam*, Köln, Liga Gegen den Imperialismus, 1974.
- 2) Nadine Mensel, *Der Entwicklungsprozess der Sozialistischen Republik Vietnam*, Wiesbaden, VS Verlag für Sozialwissenschaften VS, 2013.
- 3) 富田英夫「東ドイツの建築家コンラート・ピュシエルによる朝鮮半島の調査」『九州産業大学工学部研究報告』(51)、2015、pp. 53-56.
- 4) Curtis Swope, *Building Socialism, Architecture and Urbanism in East German Literature, 1955-1973*, New York, Bloomsbury Academic, 2018.
- 5) Christina Schwenkel, *Building Socialism, The Afterlife of East German Architecture in Urban Vietnam*, New York, Duke University Press, 2020.
- 6) 富田英夫「東ドイツによる成興とヴィンの戦災復興」『九州産業大学建築都市工学部研究報告』(4)、2022、pp. 9-12.
- 7) 谷川竜一「ハノイ・キムリエン団地の建設に刻まれた北朝鮮・ベトナム関係史——1959年、組立式建設技術は千里馬に乗って」『日本建築学会計画系論文集』89巻巻825号、2024、pp. 2218-2229.